



口七九  
924  
1





門仁S  
雅924  
卷1-3



大和小学



世乃人れくまかき澄くくふるあつどあ  
りわろき源氏侍勢物終わきとよあむじ  
ト男女のいまゆにけられよとの食をまき  
ていほうめんとやいとあやし遠原宣賢が侍勢  
物終い好色のいとをまきれど終とあむじの  
わりの義とあむじのあつと孔益業卒地とくハ  
とれ志うんとといふかふがことよりあむじんを  
口押しはらけえいわろくあつまに河そびあ  
たふがのりとはてかの物終とまきられけり







孔子の六經をからりて書きたまひし一經の  
の事一とありぬありてなきのられ世よたき  
まもま日月と周を繞るなり

○いぬ一ぬ金とらるるてはそとてらるる  
たのまをまじりてたらきぬあぢりひたりぬ  
よあまなり物とらるるにゆるぐ今まま志  
しとらるる目志ひのふたどらるるを  
とらるるたがはなれどらるる子身目  
智人よらるるれあめらるる父の母を  
教とらるるいまふと

○ぬ人のけあまらるるてはそとてらるる  
いと子とや一ぬは志びて一ぬ乃乳母ありを  
まばその家とみまはのそあまをりあまを  
よあまはとらるるけあまらるる

○孟子のけあまらるる河海は橋と一ぬとてらるる  
ふらるるそとてらるる母ありとぬはそとてらるる  
そとてらるるけあまらるる一ぬはそとてらるる  
そとてらるるけあまらるる一ぬはそとてらるる  
わらるるけあまらるる一ぬはそとてらるる  
○孟子のけあまらるる一ぬはそとてらるる







○第一海のひびくは神代は男子生て八九  
十二とあり小字よひきて存せたるを二十五六  
次より大文字のよきて身とれと先人をたれしは  
乃とをい女子の十年よなりぬまば所より  
さびて周してさへけりとも

○我國第十六代應神天皇は御宇に百濟國よ  
り阿直岐といふよあり事りしは天皇御  
まされおのありやとといふ天皇を  
わのともあつて守りたり是とありあつたの國より  
皇位とまへて經使となしてまゝ居たり下みおほ

ひさしつる先日本經學のりなり先ありと中傳  
第四十二代文武天皇の御宇に小釋奠とて先  
治の御書天皇乃比まて六十餘冊よ學校あり天  
學寮よ二件の教員をこまつれ存經傳經考と  
と年にくつして編志たり明日胎と海門のり  
奠儀の御書式には御あり本約と釋子傳書乃  
又とのせまより年中約事釋奠のりなり  
唐人の御書さうけとうけしとせ先と

ひさしつるのりなり  
御書さうけとうけしとせ先と  
御書さうけとうけしとせ先と



ゆつり場一八月のまげとさりのまにま  
悉にそめふふまのひかりと

かく目おたりしにのり時らもさきせるそや  
源氏の将軍院友氏の勅字流橋氏の字額記  
かどそれらとまはりのまままてあり下野乃  
是利僧法師とさけりとぞを法我お授る  
金沢のつと文庫たおととありしうけり  
す悉しあくなりわづらふまの書ハ勅書ぬ入  
とさあとしてんせ傳わめ一とありとゆ也

○正統記第七代存書天皇乃清くに奉る

始皇經書とそめとつり始皇ハ集討の集乃  
悉しありしがとらりのあまらしに神仙生のこと  
まどい酒上よ善業方文瀛例としてと乃仙島わ  
つとゆまのに徐福とてふたの業成りしめ  
しつ中史漢書つとつり徐福海まうひて日守  
し来りたるまふとのほ用乃義楚は師か六帖案  
乃膳店禪師が事苑とにきりし山阿は經書と  
おまるとあん宗の政陽公が日守の刀の哥り

徐福の討經集贊  
造書百篇今存











百物ありきふい感通るり人よきそつ仁義礼智之  
性寂然よりありあり也若し父子夫婦も初朋友  
も兼物一物事に海より感通也是こそ一貫の心  
聖人ありし人の徳を傳ふは是れありたりなり  
寂然なる徳とありて徳いふは心ゆよあるの事と  
みあはしむ如く父とて孝子とて寂然の樂  
とありてこれ徳なり人倫のありきをたて  
てを傳ふりり朱子孫徳乃ぞ一大家よすこと  
實ありと云ひ初鮮乃孝物辭漢ありこのこと  
わづらひ初親とありて人倫とけつり天理とありて  
人事傳乃字の言にありらふなりとありたり  
孝ふけ言とありてありおきばありひてよか  
ぬとしかるべし

二五七







